

審査の結果の要旨

氏名 Matthew K. D. Brummer
(ブルーマ・マシュー)

“International Relations and National Innovation: Security Threats, Strategic Alliance, and Technological Growth” (国際関係と国家の革新：安全保障上の脅威、戦略的同盟、技術的成長) と題する Matthew K. D. Brummer (ブルーマ・マシュー)氏が提出した論文博士学位請求論文は、各国の技術革新をそれぞれの国がおかれた国際的安全保障環境によって説明しようとするきわめて野心的な試みであり、体系的な数量分析により、各国のおかれた脅威の度合いや（アメリカとの）同盟関係の存否が、それぞれの国の技術革新の動向に大きく影響を与えていることを明らかにした論文である。

本論文の優れた点の第一は、これまで技術革新を生み出す要因としてほとんど体系的に検討されたことのない国際的安全保障環境の影響に明示的に焦点をあて、脅威の度合いの高い国およびアメリカと戦略的同盟関係を保持している国の多くが、技術革新を成し遂げる傾向があることを明らかにしたことである。これまで国際政治学で技術革新の重要性が取り上げられなかったわけではないが、それは、あくまでも国際政治に影響を与える独立変数としての技術革新であった。技術革新がなにゆえ発生するかという問題について国際政治学ではほとんど研究が存在しなかったのである。また、一般的な技術革新研究においては、国内の制度的要因が強調されることはあったが、そこでもまた、国際安全保障環境を重要な変数としてとりあげる研究はほとんどなかった。したがって、本論文は、国際政治学においても、また技術革新研究においても、全く新しい分野を先駆的に切り開いた業績であると評価できる。

本論文の優れた点の第二は、技術革新、脅威度、戦略的同盟関係という、出来合いの指標が存在しない重要変数について、100カ国以上の国について25年をこえる数量データを渉猟し、その中から比較的妥当性の高い指標を選び出し、これまでの技術革新論が提起してきた制度などの重要要因を制御変数としてとり入れたうえ、徹底的な回帰分析を行い、脅威度と戦略的同盟関係が技術革新に有意に影響を与えていることを発見したことである。とりわけ困難なのは同盟をどのように操作化するかであるが、ブルーマ氏は、アメリカとの同盟

が当該時期における最も顕著な同盟関係であるとみられることから、条約に基づくアメリカとの同盟、アメリカ軍高官の訪問回数、アメリカとの共同軍事演習頻度をすべて検討し、分析結果の堅牢性を確認している。

本論文の優れた点の第三は、脅威度とアメリカとの戦略的同盟が技術革新に影響を与えたという一般命題に加え、一方では、より細部に目を注いだ検討を行うとともに、他方では、技術革新が脅威や同盟にどのような影響をあたえるかという相互影響についても連立方程式モデルを作成することで確認していることである（3段階最小自乗法で推計）。細部に目を注いだ分析で特筆されるべきは、技術革新を一般的な技術革新と軍事に関する技術革新に分け、同盟が一般的技術革新を促進する一方、軍事的技術は促進しないという興味深い知見である。また、脅威と同盟と技術革新をすべて内生変数として作り上げた連立方程式モデルは、その他の重要変数を外生変数としてとりこみ、技術革新に関するこれまで作られた実証可能なモデルのなかでも最も包括的なものであると評価できる。

本論文の優れた点の第四は、論述の体系性・包括性である。本論文の実証部分の根幹をなす第4、5、6章は、学術雑誌への既発表ないし公刊予定論文であり、それぞれ独立した論文である。しかし、それにもかかわらず、それらの3つの章は、論述として論理的に展開する博士論文の有機的な一部を構成しており別々の論文であることを感じさせない。

これだけ壮大な野心的論文であるだけに、改善すべき点や将来の課題がないわけではない。本論文では技術革新の指標として各国の特許を使っているが、特許が技術革新のすべてを反映しているわけではない。特許を補完する指標の利用が望ましい。また、本論文では、メインの統計分析に加えて、付録でいくつかの個別事例への分析がなされているが、いまだ初歩的な分析にとどまっており、なお本格的な分析が待たれる。しかし、このような課題は、本論文の学術的意義を損なうものではなく本論文の国際政治学ならびに技術革新研究への貢献は著しく大きい。

よって本論文は博士（学際情報学）の学位請求論文として合格と認められる。